
もう一人の敵

雨鱒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう一人の敵

【Nコード】

N1151Z

【作者名】

雨鱒

【あらすじ】

「それは没収させていただきます」犬夜叉たちの前に現れた謎の男、エージェント・トーマス。トーマスが没収しようとする『それ』とは、四魂のかけらであり、素性の知れない彼に四魂のかけらを渡す訳にはいかない。トーマスの要求を蹴った犬夜叉たちであったが…。

魔界の男

何羽のカラスが鳴きながら飛び回り、その下には一つの集落が見える。

未だ日も沈んでいない時間帯であり、村人の話し声などが聞こえるが、集落は静まり返っていた。

それもそのはず、地には無残な姿に変わり果てた村人たちが転がっていた。

彼らは野武士連中の手によって皆殺しにされたのだ。

骸が転がる場所は決していいものではなく、近寄り難いものでもあった。

その数分後、集落に一人の男が足を踏み入れた。

年は四十代ほどの黒い背広と眼鏡をかけた紳士的な雰囲気漂う外国人男性であった。

名はエージェント・トーマス。外見ではそこらにいる人々と変わらないが、実は魔界から来た人物、すなわち悪魔なのだ。

「やれやれ、人間とは実な残酷な生き物だ……」

村人たちの骸を見てボソリと呟く様に言った。

「さてと、彼らには罰を受けてもらわなければならないね」

トーマスは踵を返して、村を後にした。

トーマスが向かった場所、それは村人たちを皆殺しにした、野武士連中のアジトへ、だ。

制裁の幕開け

下品な笑い声がうるさいほどに響き渡り、その中に若い娘の悲鳴が響き渡る。

見れば野武士連中が一人の若い娘を犯そうとしていた。

娘は声を張り上げながら抵抗するも、口に布を押し込まれ、声を封じ込められる。

「へへへッ、じゃあ最初は俺な」と、すると、

「おやめなさい」

その声に連中は、一旦動きを止める。見れば彼らの後ろにトーマスが立っていた。

「何だ、お前は？」

連中はトーマスを凶悪な視線で睨む。

「か弱い娘を数人で犯すなど非人徳行為も同然ですよ。だから、おやめなさい」

「うるせえぞ、外人。失せやがれ。さもなければブツ殺すぞ！」

せつかくのところに水を差された連中はしゃくにさわり、トーマスを罵倒する。

「荒れておりますな」

「つたりめえよ。せつかくのお楽しみをテメエにぶち壊されたんだからな」

「おお、そうでしたか。それは悪いことをした。なら、お詫びをせねばなりませんね」

しかし、トーマスが言う『お詫び』の意味を彼らは未だ知りもしなかった。

トーマスが指をパチンと鳴らした時だ。

連中の背後から銃声と共に仲間の悲鳴が聞こえた。

「何だ?!」

連中は頭を背後へ振り向けた。

連中の目に飛び込んだ光景は見た事のない銃器を装備した異様な格好の四人組みが仲間を次々に射殺していたのだ。

トーマスが言う『お詫び』とは、連中に対する『制裁』だったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1151z/>

もう一人の敵

2011年12月8日01時54分発行